

## 令和元年度 法人本部事業報告書

### (1) 総括

〈現下の課題に対する取組を中心に〉

令和元年度は、インフルエンザから続く新型コロナウイルスとの闘い、人材確保のうねり、建物・設備の連続改修に彩られた一年であった。

また、2019年～2020年は、2017年～2020年を策定期間として定めた「第7次中期発展計画」の最終年次にあたった。年度当初に、主たる課題として次の3点を掲げた。

- 1 人材確保と育成
- 2 モチベーションの向上
- 3 収支バランスと財務管理

- 1 本格稼働は令和2年度からとなるが、人材確保を最終目的にITを活用した広報戦略に着手することを主たる目途として専任職員を採用した。ホームページの更新、タブレットやインカム、Wi-Fi設備の導入、介護支援ソフトとの連携など積極的に推進する予定である。
- 2 人手不足軽減のため取り組んでいる外国人技能実習生の採用について、新たにベトナム国から3名受入し、合計5名となった。働きやすい環境を作り、貴重な人財として活用、日本人職員のモチベーションアップにつながっていると思われる。令和2年度は、国の新補助制度を活用して自動翻訳機（ポケットーク）を導入し、コミュニケーションの向上に努め業務精度の向上を図る予定である。  
専門学校等の教育機関との連携も図ったが、入学者が激減する状況に変化は無く、当面、採用難は続くと思われる。  
その他、資格取得助成金制度を設け、介護福祉士や社会福祉主事、実務者研修等の資格取得の支援を開始した。既に複数名がこの制度を利用して資格を得ており、労働意欲の向上に役立っていると思われる。
- 3 介護労働人材が逼迫している状況は、継続して運営最前線に厳しさをもたらしている。特別養護老人ホームは全ユニット揃っての稼働が困難となり、1ユニット（れんげ）を休止し、90名定員のところ80名の受入枠で1年間推移した。また、令和2年度に入ると新型コロナウイルスが突如として現れ、世界的に感染が拡大し、短期入所施設もそのあおりで稼働率が前年に比して約21%の大幅な減少となった。  
資金収支上はかろうじてバランスを取ることができたが、事業活動においては、減価償却費も含めて約1,900万円のマイナスとなった。

### (2) 令和元年度運営方針に沿った取り組みについて

平成31年（令和元年）の年頭にあたって、愛泉会は、そのあい言葉を「ご利用者に満足を、ご家族に安心を、地域に信頼を」とし、実践3項目を簡潔に次の通り定め、毎朝唱和することで職員一丸となって取り組んできた。

- 1) 思いやり
- 2) 寄り添う気持ちを
- 3) 大切に

また、令和元年度の重点取組項目として、続発する自然災害に対する自衛的設備の導入、建物や設備の老朽化に伴い、複数の大型改修工事に精力的に取り組んだ。幸い、自己財源を軽減するかたちで、全ての案件について国庫補助等や災害保険の適用がなされて完結した。

列挙すると、

- 1) 経済産業省：平成31年度災害時に備えた社会的重要なインフラへの自衛的な燃料備蓄推進事業（略称：自衛的燃料備蓄推進事業）
- 2) 環境省：二酸化炭素抑制事業 合併処理浄化槽改修工事
- 3) あいおいニッセイ同和損害保険（株）：花館漏水修繕工事（台風15号関連）
- 4) 日本財団：リハビリテーションデイサービスみもぞ全面改修工事
- 5) 日本財団：リハビリテーションデイサービスみもぞ所有車更新

### **（3）令和元年度事業所別の利用状況について**

前述の通り、特別養護老人ホーム情和園の1ユニット休止に伴う利用者数の抑制が法人全体に与えた影響の大きさを印象づけた令和元年度であった。これに対し、居宅部門は全体的に健闘しており、特別養護老人ホームや短期入所のマイナスを相当程度カバーする結果となった。今後は更に、アットホームいずみも含めて利用者数の監理を厳格に行う必要がある。

詳細は、添付別紙「直近3年間の利用人員対比表」参照。全体を俯瞰した分析も併せて記載している。

年間を通して、人材確保に努めるとともに、職員は介護技術の向上に勤しみ、モチベーションを高め、地域の護り手としてご利用者やご家族の信頼獲得に努め、信頼される情和園ブランドの確立を図っていく必要がこれまで以上に求められる。

### **（4）専門委員会組織とその活動について**

各専門委員会の令和元年度事業報告は添付別紙の通り。